



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年6月発行（第86号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 〔目次〕

- ◎巻頭メッセージ：「過ぎ去る天地」 エレミヤ
- ◎「たとえを悟る」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

### [巻頭メッセージ]

#### 「過ぎ去る天地」 by エレミヤ

本日は「過ぎ去る天地」という題でメッセージをしたい、と思います。黙示録には天地が過ぎ去る日が来ることが描かれています。以下の箇所です。

黙示録21:1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

ここには、天地が過ぎ去ることが書かれています。いったいこの日はどんな日なのでしょう？そのことを考えて見たい、と思うのです。

#### <主はたとえについて語られた>

このことを考えるに、まず始めに知らなければならないことは聖書はたとえや謎に満ちた書である、ということです。主ご自身がたとえを通さずに語ることはなかったことを聖書は以下のように述べます。

マルコ4:33 イエスは、このように多くのたと

えで、彼らの聞く力に応じて、みことばを話された。

4:34 たとえによらないで話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちにだけは、すべてのことを解き明かされた。

主はたとえを通して語られたことが記されています。聖書、特に黙示録はたとえに満ちた書です。たとえを理解することなしにこの書を正しく理解することは難しいことを知りましょう。

#### <天地のたとえ>

テキストには天地が過ぎ去ることが書かれています。そもそも天地は何をさすたとえなのでしょう？このことを理解するには以下のアブラハムの箇所を見る必要があります。

創世記22:17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。

ここにはアブラハムに対する神の約束が書かれています。

## 「過ぎ去る天地」 by エレミヤ

すなわち彼の子孫が天の星、海辺の砂の様に多くなることが語られているのです。アブラハムは全イスラエル民族の先祖であり、また新約のイスラエルであるクリスチャンの信仰の先祖でもあります。

そして現代の彼の子孫であるクリスチャンはここでは、天の星、海辺の砂としてたとえられているのです。そして星があるところは天であり、砂があるところは地です。すなわち、天地とはクリスチャンが存在するところとして、教会をさすことが理解できます。

### <天地と律法>

さて、テキストでは天地が過ぎ去ることが書かれています。この天地が過ぎ去ることに関して書かれている箇所が他にもあります。以下の箇所です。

**ルカ16:17** しかし律法の一画が落ちるよりも、天地の滅びる（過ぎ去る：KJV）ほうがやさしいのです。

ここには、黙示録と同じように天地が過ぎ去ることが書かれています。ですから、この箇所には何故黙示録の日に天地が過ぎ去ってしまうのか、その理由が書かれている、と理解できます。

さて、この箇所では天地が過ぎ去ることと関連して律法の記述が落ちたり、無効になったり、改変されることが書かれています。

すなわち、私たちが神のことばである律法の記述を落としたり、無効にしたりするより、それよりは教会が過ぎ去り、崩壊するほうがたやすいことである、そのことが書かれているのです。

すなわち、天地すなわち教会が過ぎ去ることと神のことばが改ざんされたり、攻撃されたり、無効にされることとが関係することが理解できるのです。

### <現代は神のことばへの攻撃が許される時代>

現代はどのような時代なのでしょう。今の時代の大きな特徴は教会やクリスチャンが背教化し、神のことばを捻じ曲げ、その意味合いを改ざんする時代です。たとえば、以下です。

（同性愛の容認）

聖書は明らかに同性愛は神の前に罪であり、神の怒りをかう罪であることを語ります。以下の通りです。

**ロマ 1:27** 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行なうようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。

このように聖書は明らかに同性愛を禁じています。しかるに現代の教会では、もうこの同性愛の罪を指摘しようとはしません。それどころか今の教会においては同性愛者を牧師に任命したりしているのです。

このようにして、現代の教会では神の同性愛に関する律法に対して攻撃を行い、これを無効にし、改ざんし、無視しようとしているのです。しかし、このような教会の冒涇の結果、変質してしまい、過ぎ去り、滅びるのは天地、すなわち教会自身なのです。

（イエス以外に救いはない）

聖書は明らかにイエス以外に救いはないことを語ります。以下のことばの通りです。

**使徒4:12** この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

## 「過ぎ去る天地」 by エレミヤ

しかし、このことに関しても今教会では異論が起こりつつあります。ローマ法王は他の宗教にも救いがあるとする多元主義を進めつつあります。マザーテレサは、イエス以外にも救いがあるとする多元主義者であり、彼女はヒンズー教徒がたとえ臨終の床にあってもキリストを信じるようには薦めませんでした。すなわちカソリック教会は上記の神のことば、「イエス以外に救いはない」との律法に対して、戦いを挑み、攻撃をし、そのことばを落とし、無効にし、改ざんし、「イエス以外にも救いがある」との教理を進めようとしているのです。しかし、このような傲慢な教会の行く末は、みことばどおり、教会自身が過ぎ去り、変質し、崩壊するようになるでしょう。

アメリカの聖書訳はますますおかしな訳となり、同性愛を推進するような訳、フェミニズムを推進するような訳、堕胎を罪でないとする訳がどんどん発表されています。しかし、そのような意図的な訳がまかり通ったからといって、聖書を書かれた神様の方針が今更変わるわけではありません。そのように聖書そのものさえ、改ざんしようとする傲慢な背教の教会はその教会自身がいずれ崩壊するようになるでしょう。

### <神のことばではなく教会が過ぎ去る>

このようにしてキリスト教会が人の声に耳を傾け、同性愛の罪を指摘せず、また都合の悪い聖書箇所を耳ざわりの良い訳に変えたからといって、問題は解決するのでしょうか？いいえ決してそのようなことはありません。逆に聖書はそうにして神のことば、律法を過ぎ去らせるよりは、天地、すなわち、教会が過ぎ去ることが容易であり、簡単であることを語るのです。

### 「天地が過ぎ去るほうがやさしい」

聖書はこの罪のゆえ、すなわち、あえて神

のことばに戦いを挑み、このことばを無視し、論争を挑んだ罪のゆえに、いずれ教会自身が過ぎ去ることを語ります。それが、下記の天が過ぎ去る日のことなのです。

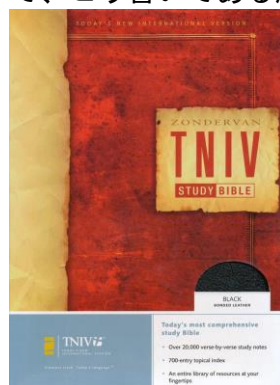
### 「古い天と地は過ぎ去った」

この箇所以外にも聖書は、終末の日に教会が変質し、移動し、消滅する日のことを預言します。たとえば以下の箇所です。

**黙示録 6:14 天は、巻き物(bibilion)が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。**

ここでは天が消えてなくなり、消滅する日のことが書かれています。この箇所のたとえを理解しましょう。天は先ほど見たように教会のたとえです。ですから、ここでも教会が消滅し、崩壊し、過ぎ去る日のことが書かれています。そして、何故天が消え去るか、その理由として巻物に関して書かれています。ここで書かれている巻物とは、ギリシャ語でbiblionと書かれており、すなわち、聖書のことです。以下で聖書をさす記述の中でもこのことばが使われています。

**ルカ4:17 すると、預言者イザヤの書(bibilion)が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つけられた。**



同性愛向けに改ざんされた聖書TNIV訳

## 「過ぎ去る天地」 by エレミヤ

すなわち、「天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり」との表現を通して、天すなわち、教会が消滅し、崩壊することと巻物すなわち、聖書のことばが関係することがここではたとえを通して語られているのです。

察するところ、その意味合いは先ほどの箇所と同じであり、教会はあえて、神のことばに戦いを挑み、そのことばを曲げたり、改ざんしたり、攻撃したり、ことばを省こうと試み、結果として教会自体が崩壊する、その日を予言していることがわかるのです。

さらにテサロニケ書を見るならもっと明確に教会が背教する日について書いてあります。

**2テサロニケ2:3** だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

ここに書かれているように終末に向かって教会は、いずれ背教するようになります。そして神のことばを変えようとするようになるのです。しかし、その結果、動き、過ぎ去り、消え去っていくのは、神のことばではなく、教会自身なのです。教会は変質し教会ならぬものになるのです。

このことは、以下のテサロニケ書のことばを見ればわかります。

**2テサロニケ 2:4** 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

ここで書かれている神の宮とはすなわち、教会のことです。そして、その教会の真ん中に彼すなわち、反キリストが座すようになることがここでは預言されています。キリストを追い出し、反キリストを神として迎える教会

とは一体どのような教会でしょうか？これこそ、文字通り、崩壊し、過ぎ去り、変質した背教の教会の姿なのです。

宮が変質し、教会が崩壊するとは人聞きの悪いことばですが、しかし、その日はまた、主イエスご自身が預言されている日でもあります。以下のことばを見てください。

**マタイ24:1** イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

**24:2** そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

ここでは、終末の日に宮が崩壊することを主が預言しています。そして、その宮の崩壊とは物理的な宮のことではありません。何故なら、今のエルサレムには宮など存在していないからです。存在していない宮が崩壊するはずがありません。

逆に以下に書かれているように宮とは神を礼拝するところとして教会のたとえです。

**エペソ2:20** あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。

**2:21** この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、

ここに書かれているように宮とは教会をさす表現であり、その土台は、使徒パウロの教えや、預言者たちの教え、さらに礎石であるキリストの救いの教理などです。

## 「過ぎ去る天地」 by エレミヤ

しかし、終末の背教の教会においてはこれらの土台石の全てが崩壊し、捨て去られます。すなわち、教会の根本教理が破壊され、その日には教会が過ぎ去り、消え去り、教会ならぬものになってしまうことが預言されているのです。そして、そのように教会が過ぎ去り、変質し、消滅してしまうその理由が他にもない教会があえて、冒瀆的になり、神のことばに戦いを挑み、それを変え、変質させ、無効にしようと試みるからなのです。

そして、結果として消え去り、過ぎ去るのは神のことばではなく、天地すなわち、教会自身であることをこれらの聖書箇所は預言しているのです。

### <教会は獣化する>

このようにして、神のことばを改ざんし、過ぎ去らせ、亡きものにしようとする教会の行き着く先は黙示録の中で別の表現で語られています。以下がその箇所です。

黙示録 13:11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。

13:12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。

13:13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。

13:14 また、あの獣の前で行なうことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。

13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

13:16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手がその額かに、刻印を受けさせた。

13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

ここで書かれているのは、教会の変質した姿です。「小羊のような二本の角」を持つ獣とは小羊イエスに従う、という名目を持つキリスト教会をさすことばです。ここでは、教会が獣化し、最後には、獣の像すなわち、反キリストを拝するべく、人々を強制する団体となることが預言されているのです。

さらに「その獣の像を拝まない者をみな殺させた。」と書かれています。すなわち、反キリストを拝まないものを殺すように背教の教会が強制することが書かれています。

ですので、私たちは知らなければなりません。神のことばを否定し、無視し、改ざんしようと志す背教の教会はいずれ、崩壊し、変質し、教会ならぬものになる日が来ることを聖書は預言していることを知るべきなのです。私たちが正しくみことばにとどまることがどれほど大切なことであるかを知しましょう。  
—以上—



宗教多元主義者 (religious pluralist)  
マザーテレサ

詩編 78 : 1 ~ 2 私の民よ。私の教えを耳に入れ、私のことばに耳を傾けよ。私は、口を開いて、たとえ話を語り、昔からの謎を物語るう。

エゼキエル 17 : 2 ~ 3 人の子よ。イスラエルの家になぞをかけ、たとえを語り、神である主はこう仰せられると言え。

神はたとえと謎で語られるとあります。イエスは「たとえによらないで話されることはなかった。」(マルコ 4 ; 34)とあり、聖書は喩えや謎に満ちています。喩えや謎が解き明かされて初めて聖書が、わかるのです。

喩えを御霊によって悟り奥義を得た人々がいます。同じく 34 節で「ご自分の弟子たちだけは、すべてのことを解き明かされた。」とあるようにイエスの喩えを悟ることが許されたのはイエスの弟子たちでした。使徒パウロも第一コリント 9 章で、人間的な知恵ではなく、御霊により喩えを悟っています。

第一コリント 9 : 9 ~ 10

モーセの律法には「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない」とかいてあります。いったい神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。それとも、もっぱらわたしたちのために、こうっておられるのでしょうか。むろん、わたしたちのためにこう書いてあるのです。~」

このように、旧約の申命記 25 ; 4 にある牛は働き人の喩えである、とパウロは解き明かしています。そして旧約において牛のことが、働き人、正しい信徒の喩えとするなら、聖書に出てくる動物の豚について、正しい信仰を持たない信徒のことを指していると悟れます。豚に真珠を投げてはならない、とイエスが語られたこととも関連していることがわかります。

また、パウロは創世記 2 : 24 「それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。」の結婚について、エペソ 5 ; 32 で「この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。」と語っています。創世記 2 : 24 の結婚について、パウロはキリストと教会の喩えであると悟りました。このように、喩えを悟ることは偉大な奥義なのです。パウロはパリサイ人、律法学者のように人間的な知恵である「人の言い伝えの学問」から喩えを理解しようとしたではありません。御霊により喩えを悟ることができたのです。まさに奥義です。神の知恵による喩えの理解なくしては、聖書のことを悟る事はできません。

結婚の喩えから「女が教会の喩え」と悟れば、聖書での「女」の意味するところもわかります。雅歌が官能的で読めないという信徒のことを聞いたことがあります。それは単に御言葉を表面的に男女の恋愛として考えているからです。雅歌においても女が教会の喩えと悟るなら、そんな愚かなことにはなりません。

旧約聖書も喩えと謎で満ちています。そして将来起こる事が示されている黙示録も同様です。新約の神の民が今のクリスチャンならば、旧約の喩えが過去の事だけでなく、現在にも関わっていると考えるのが自然です。それで黙示録にはバビロン、ソドムなど旧約の中に出てくる国が多く喩えられているのです。喩えと謎を悟ることは本当に大事なことです。しかしイエスの時代パリサイ人や民衆は聖書の喩えを悟ることが許されませんでした。

人々に謎のよう喩えで話すイエスに、弟子たちが質問します。イエスは「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。(マタイ 13 : 11)と答えられます。

## 「たとえを悟る」 H.F

そして続けてマタイ13:13~14では「わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らが見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。こうしてイザヤの告げた預言が、彼らの上に実現したのです。」といわれています。ではなぜ教師たち指導者は、喩えの理解を悟ることが許されなかったのでしょうか。

マタイ15:1~2で、パリサイ人は主の弟子たちを見てイエスを非難します。「あなたのお弟子たちはなぜ長老たちの言い伝えを犯すのですか。」しかし、イエスは、彼らに対してこう答えられています。マタイ15;3「なぜあなたがたも自分たちの言い伝えのために神の戒めを犯すのですか。」さらにマルコ7;13にも、「あなた方はじぶんが受け継いだ言い伝えによって神のことばを空文にしています。そしておなじようなことをたくさんしているのです。」とあります。

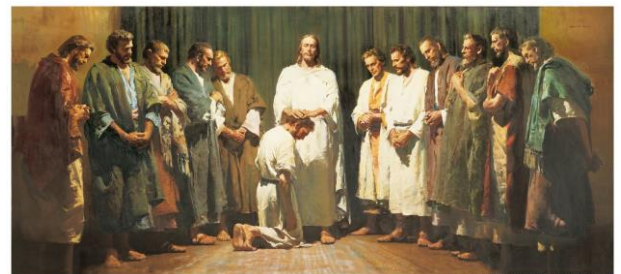
教師である律法学者やパリサイ人は、御言葉よりも、自分たちの言い伝えのほうを優先し、人間の見解で神のことばを空文にしている、とイエスは言われます。そのため、喩えも何も悟ることができず、彼らはイエスに逆らい続けたのです。イエスが彼らに対して、ヨハネ5;39~40で「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。それなのに、あなたがたは、いのちを得るために、わたしのもとに来ようとしません。」と言われます。まさに当時の教師たちは見てはいるが見ず・・・というイザヤの預言通りの者達です。

マタイ11:25では、イエスは「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちにあらわしてくださいました。」といわれました。使徒4:13では、当時の教師たち使徒に知恵に対して、「かれらは、ペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って

驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」とあります。

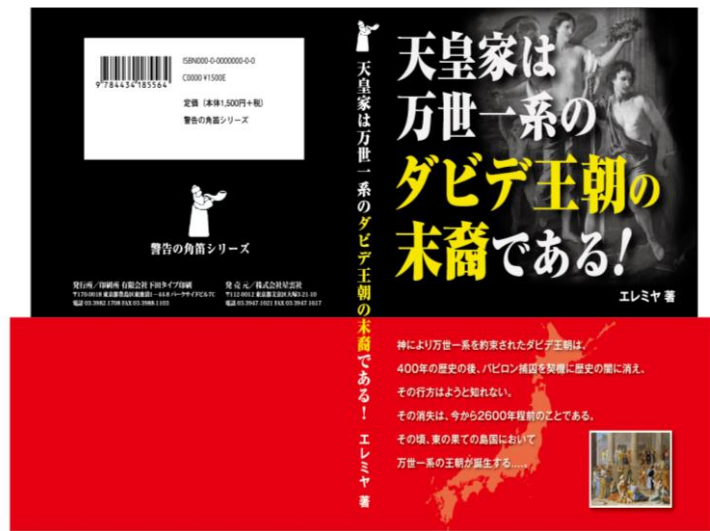
聖書の専門家ではない、無学な弟子のほうに聖霊により真理を悟っていたのです。聖書のなぞや喩えは聖霊によって理解することが必要です。パリサイ人のように御言葉の喩えや謎を表面的な人間的理解で解釈するのは本当の理解ではありません。今の時代、神学の専門家の書いた注釈書を頼りにして、喩えを理解しようとする人々がいます。かつての聖書の専門家、指導者たちが盲目であったのです。今の時代が大丈夫と言えるのでしょうか。今の時代、自由主義神学、弁証法神学、フェミニズム神学他、数多くの神学論がありますが、これらは御霊の知恵によらない人間観の学問です。パリサイ人たちの「人間の言い伝え」とは、現在の神学といえるのではないのでしょうか。

教師の言葉を各人が御霊によって吟味せずに盲従していくなら、イエスの時代に多くの民衆が喩えを悟れなかったのと同じ道をたどることになります。結局のところ、御霊によって喩えや謎を悟らなければ、なにも悟ることができないのです。今の時代を見分けるためには、使徒パウロがしたように人間の知恵に基づいた注釈ではない御霊による喩えの理解が必須です



弟子はたとえを悟った

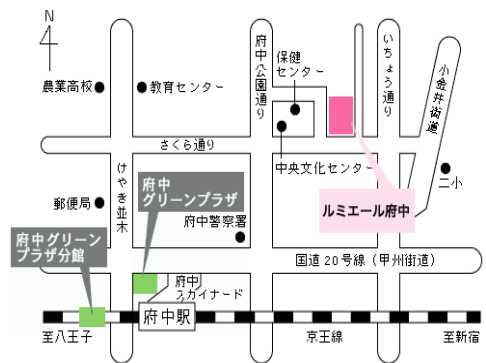
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。  
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255  
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
 午後 14:00-16:00  
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
 (tel:042-360-3311)  
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、  
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

★教会のHPもあります。  
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

★クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

★クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

★クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

★ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>